

進」は、この内的矛盾の解消を目的としていた。研究者は、教師のメッセージの中の具体的に述べられていない事象に対して、あえてそれとなく質問や疑問を投げかけ、教師たちがより具体的な実践の叙述を行なうようにうながした。以下のような事例がその典型である。

「Nです。F先生とK先生の交流実践は、うまく言えませんが、社会に開かれているような実践で、僕も興味があり、いつも拝見しています。テレビ会議をすすめていくうちに、子どもたちは、A町商店街とB市の商店街のことを考えていくうちに、同じ問題にぶちあたるといことに気づき始めたのでしょうか。それを踏まえたくらうで、1つお聞きしたいのですが、よろしいでしょうか。

この実践をするようになって、教室の中で、子どもたちの様子に変化などはあったでしょうか。たとえば、今まで目立たなかった子どもが、みんなに認められるようなことが起こったとか、今まで、気づかなかつたけれど、この子どもには、こんな一面もあったんだなあと思わせるようなできごとがあったとか。ふつうの授業と、こうした交流学習の授業と、子どもの様子を比較すると、こんなところが違つうんだという場面はあったでしょうか」(1999/09/23 研究者N TETでのメッセージ)

このような研究者Nの疑問に対して、教師Fは、以下のように答えている。

「教室の子どもたちはがやがやうるさくなりました。いろいろな条件があるでしょうが、特に女の子が文通をして、A町の学校祭に行つて直接話したいと盛りあがっています。テレビの前で話せたことは緊張するけどすごく自信になっており、自己紹介のときのように評価してもらつともう、それは忘れることのできない瞬間ではないでしょうか。今日秋の遠足の話をしていると「A町の商店街へ行きたい」という意見が出てびっくりしました。今まであまり気にとめなかつた商店街という目ができつあります」(1999/10/08 教師F TETでのメッセージ)

教師Fは上記のメッセージで子どもの様子をより具体的に描いた。メッセージが具体的になれば、他の教師からのコメントもつきやすくなる。「○○先生のクラスでは、子どもがそうふるまつたけれど、うちのクラスではこんなことをした子どもがいた」のように、自分の実践との比較や対照が容易になるからである。上記のような具体的な叙述に他の教師からのコメントがつき、さらにそれに対して他の教師のコメントが連鎖する。プロジェクト当初は、1つのジャーナルにつきコメント数が、平均3コメント前後であったのに対して、しだいにそのコメント数が増加するし、平均で6件の

コメントがつくようになった。

この様子を教師Dは以下のように語っている。

「で、(研究者からの) 合いの手がはいって、もっとこのできごとは具体的にどういう意味なんですか、とか子どもがどうでしたって聞かれると、もっと今までよりこまかくばーっと(自分の実践を) 見ていかざるを得なくなりますね。で、ジャーナルを書くと、今度は他の先生からコメントをもらうことが多くなって、だんだんおもしろくなりましたね」(1999/12/12 教師D インタビュー)

教師Dは、自分の実践に対して他の教師からのコメントが連鎖すると、「だんだんおもしろくなる」と述べている。このような介入によって、教師たちは自らの授業の具体的な叙述を行なうようになり、コメントが連鎖するようになった。発言者の固定化がしだいに弛緩し、最大80%までにいたった上位発言者の発言占有率も、30%にまで低下した。それまで発言していなかった多くの教師たちが発言を行なうようになった。1日あたりの発言数は、多い日で10通をこえ、平均で4通の安定的な交流が行なわれるようになった。

当初、教師たちが抱えていたルールに対する内的矛盾の解消に伴い、さまざまな教師たちの声が共鳴しはじめる。

2) 事例提供

研究者はリフレクションボードの使用方法についての教師の理解を促進するため、一部の教師が作成しているボードの様子を事例としてメンバー全員に提供するという介入を行なった。具体的には、ある教師のつくったボードとその解説を全員に行なった。介入は2度行なわれ、最初は書類の郵送で、2度目は筆者のプレゼンテーションで行なわれた。

自分たちがいつもメッセージを交換しあっている仲間の教師の事例を通して、教師たちは、ボードの使用意義と使用方法について理解することが可能になったと思われる。たとえば、教師Kと教師Aは以下のように語っている。

「最初は、リンクをはるときって、どういう風に何にリンクをはるっていうのかなって思いました。やり方とか操作はわかるんだけど、どういう風につないで、どういう風にアイコンにするのか具体的なところがね(わからなかった)。Nくんが、先生の使用例とか示してくれたこともあって、それがきっかけになって使ってみて、何となくわかってきましたね」(1999/12/12 教師K インタビュー)

「(メッセージを) 抜くっていうのがわからなかったですね。(中略) 自分の約束事をつくるのができなかったんです。メッセージの一部を抜けばいいのか、それとも全部を抜くのか。でも、例をみせてくれたってことと、あと、それで使ってみて、わかってきましたけどね」(1999/12/11 教師A インタビュー)

教師Kと教師Aの言葉にみられるように、事例の提供はボードの使用意義と使用の方法を教師たちに提供した。この後、17人の教師のうち11人は日々のメッセージのやりとりに加えてボードを使用してのメッセージの関係づけを行なうようになった。プロジェクト終了時、それらの教師のボード上には、アイコンが平均23個、リンクが平均18.7個作成されていた。

これらボードを利用した教師からは、ボードの利点について、以下のような言葉も聞かれた。

「初めは、なぜボードがあるのかと思いました。(中略) しかし、使っていくうちに、よさに気づき、メッセージよりデータ価値があると感じました」(1999/12/10 教師L インタビュー)

「(ボードを利用すると、) まったくネタが選ぶのに何となく以前に(かわしたメッセージの中で) 言ったことや、以後に言ったことがみごとにつながっている(ことがわかる)ので不思議な気持ちでした」(1999/11/26 教師M インタビュー)

「こないだのボードの例でようやくわかったよ。ああいう風に使えば、そりゃ、わかりやすいよな。なんか、話がごちゃごちゃになってるからな、最近」(1999/11/14 教師O インタビュー)

教師Lは、当初ボードの使用意義についてはわからなかった、としながらも、データ価値は、メッセージよりもボードの方が高いとしている。教師Mはより具体的に、ボードの利点について言及している。教師Mによると、ボードの利点とは、それを用いると以前のメッセージと、その後のメッセージの間につながりがあることを発見できる、ということである。また教師Oは、最近メッセージが「ごちゃごちゃ」になっていることに言及し、ボードを用いればそれが「わかりやすく」と述べている。

以上の教師たちの言葉から、ボードの利点、すなわちボードが話題の不可視という問題を解消しつつあることがみてとれる。

(5) 教師の学習共同体としての活動システム

「主体-道具」「主体-ルール」への介入の結果、図8-5に示すように、活動システム内の内的矛盾はしだいに解消されていった。具体的には、ごく一部の教師が発言をしていた状態から、多くの教師がTETを用いての相互作用に参加しはじめるようになった。よって、1日あたりの発言数も安定的に推移するようになった。教師たちは、ボードの使用意義や使用方法をよく理解し、17人中11人はそれを使用しながら、相互作用を行なうようになった。

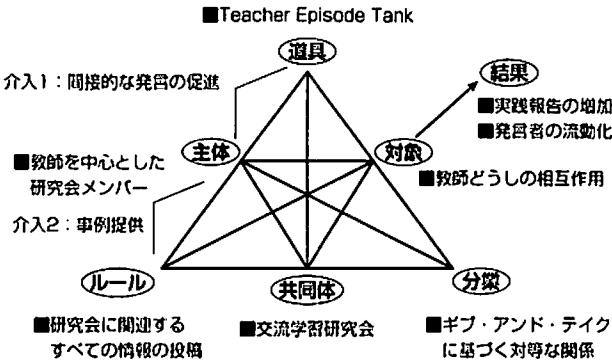


図8-5 活動システムへの研究者の介入

本活動システムはしだいに教師たちの相互の実践を語りあい、批評しあう教師の学習共同体へと転換しつつあった。教師たちは、この共同体において、お互いの実践を紹介しあったり、お互いにアドバイスを提供しはじめた。

お互いの実践を紹介しあうことに関して、教師Fは以下のように書いている。

「でも、これ（TET）使ってみて、やる前はイメージがわかんなかったけれど、やってみると、たぶん、僕は1先生にすごくからんでいて、ああ、いいなあっていう部分が見えてきて、1先生の考え方や実践について、共感できて、この線をむすびながら、ごちゃごちゃやっている、なにげなく、また線を引いてみると、やっぱりこうふえていくんですね。なにげなくみても、また1先生かって。やっぱり自分の中で、ふり返ってみると、価値観というか、考えが似ている先生の中で、自分の中で無意識に整理していることがわかりました。やってるときは、なにげなくただやってるんだけど、それがより顕在化したっていうのは、すごく感じましたね。（中略）実践としては、どういう実践をオモシロイと考えているかっていう自分の考え方を発見したし、それは僕の今後に関して、いいきっかけだと思いますし、そのあとでメッセージを書くときにも、なんか違った目でみれ

るようになった気がします」(1999/12/12 教師F インタビュー)

教師Fと教師IはTET上で積極的に自らの実践を紹介しあっていた。教師Fは教師Iとの相互作用の中で、自分が教師Iの価値観や考え方に強く影響を受けていることや、実践者としての自らの価値観などを見いだした。

教師たちは相互にアドバイスを行ないはじめた。

たとえば、教師Pは「総合的な学習の時間」の学習材として頻繁に用いられる「ケナフ」とよばれる熱帯性の植物に関して、他の教師たちに相談を行なっている。

「総合的な学習の時間の授業として、ケナフのバルブ化をみなさん、活発に行なっているようです。ここG小学校もそろそろ考えなければいけないのですが、(中略)ここTETでもバルブを作った方にご指導、アドバイスなどいただければともうれしく思います。H小学校ではホームページにのせていただけるとのこと、うれしく思っています。その裏話や苦労なども聞かせていただけるともっとうれしいです」(1999/11/06 教師P TETのメッセージ)

このメッセージに対して、教師Qなどから合計3通のメッセージがよせられていた。教師Qは、自己の経験を中心にしながら、ケナフをバルブ化する手順や実践としてまとめる際のヒントやノウハウなどについて教師Pにメッセージを送っている。

先輩教師のアドバイスを中心とした、先輩教師と若手教師の相互作用も起こった。たとえば、教師Dは以下のような記述を行なっている。

「(最近の自分の授業は)とにかく子どもたちの落ち筋きがなくなりました。そして、事件、事故(けが)がありました。教師への反抗的な態度もふえました。短時間に同じことを強制したことによって子どもが息苦しさを感じたのです。忙しいと、理性を失うのは大人も同じです。まるで、肉ばかりの食卓を与えた結果、胃腸の調子を壊したようなものです。結局は、自分の見通しの甘さで、子どもだけではなく、大人にもみんな迷惑をかけたようです。ここでも自分はひとりよがりになっていたと思いました。(中略)F先生の話聞いてやっぱり私は、自己中心的な考え方でものごとを行なっていると感じました。他人を意識して、心も配っているのですが、結局、自分が満足したいだけなのでしょうね。だから、授業でも、子どもとの関係でもトラブルが起きてしまい、自分や他人がいやな思いをするのだと思います。(中略)F先生に早く追いつきたいです」(教師Dのボードより抜粋)

上記の記述において教師Dは、先輩教師Fとの意見交換の中で、最近の自らの実践を反省し、「自分のひとりよがり」であったとしている。この際、教師Fと教師Dは「どのような授業をつくることが自分の夢か？」という話題について意見交換を行っていた。「どのような授業をつくることが自分の夢か？」という問いに対して、教師Dは「自分が納得する授業」と答え、教師Fは「自分が納得するというより、子どもが生きる学習であるべきではないか」と論ず場面が観察された。

相互の実践紹介やアドバイス、かつて失われた教師たちの相互作用が時間的・距離的制約を超え、コンピュータネットワーク上に恢復されはじめた。TETは教師の対話空間として機能しはじめた。

⑤ まとめと考察

本研究において筆者は、教師たちの対話活動をコンピュータネットワーク上に恢復すること、すなわち教師たちの学習共同体を再構築することを試みた。本章では、筆者の開発したTETの導入と研究者の介入のプロセス、すなわち、教師の学習共同体の成立の軌跡をエンゲストロームの活動システムを用いながら、簡潔に描いた。

システム導入前の一次的な矛盾、そしてそれを解消するためのシステムの開発と導入、そして二次的な矛盾の発生。

本章が採用したエンゲストロームの活動システムは、そのプロセスごとの場の輪郭を浮かび上がらせた。このような場の可視化に加えて、活動システムは場の変革にも寄与した。発生した内的矛盾に対する研究者からの介入の結果、教師の対話をコンピュータネットワーク上に萌芽させることには成功した。教師の学習共同体がしだいに形づくられはじめた。

しかし、課題も残されたことを告白せねばなるまい。

課題とは、教師の学習共同体を「維持 (sustain)」し続けることについてである。

本章で紹介した筆者の試みにおいては、TETのサーバシステムを6か月間稼働させた。しかし、最後の1か月は、教師間の相互作用が自発的には起こらなかった。学期末に近づき教務が忙しくなったことなど、原因は多々考えられる。しかし、その原因の1つとして、教師たちの間に「実践を語ること」に対する対抗文化が存在することが指摘できる。

「先生っていうのは、あんまり自分の実践を人に語りたがらないんですよ。それやって、何の役に立つって思っちゃうんです。語れば何かいいことあるのでしょうか」

(1999/06/19 教師C インタビュー)

教師Cの言葉からは、「実践を語ること」が「役に立つこと」とは認識されていないこと、それに対する忌避傾向が教師たちに共有されていることがわかる。

「教師どうして話しあうことも、お互い刺激にはなりますが、すぐに役に立たないし。お互い忙しいですからね。そんな暇がないってのが正直（なところ）です。（中略）こういう教材がありますよ、これ使ったら、子どもがこんな風になりますよ、とか、こうすればこうなる、とか……そういうの、われわれ教師は好むんじゃないですか」（1999/12/11 教師A インタビュー）

上記の教師Aの言葉によれば、「教師どうして話しあうこと」は「すぐに役に立たないこと」であり、それよりはむしろ「こうすればこうなる」のような処方箋的な教材やノウハウのほうが教師に「好まれる」傾向があることがわかる。

また、教師Fは、他の教師にコメントすることについて、以下のように激白する。

「自分を守ろうとする先生っているんですよ。（研究授業が終わって）講評でバチバチ拍手みたいなのは、違うって思う。僕には、切って切られたいっていう欲望がありますね。なんか（教師たちが）おべんちゃら言ってるのを聞くと、ゲンナリしてくるんです。そういうナアナアの雰囲気のある教師は、たいした授業をしていないって思います。でも、僕もそうだけど、最近は大変ですね。他の先生は（コメントされると）傷つく先生もいるかもしれないから。だから、（コメントするのは）ちょっとマズイかなあという感じがありますね」（1999/12/12 教師F インタビュー）

教師Fがここで語っているのは、他の教師や彼の実践に対してコメントすることへの抵抗感である。他の教師にコメントすることは「最近」は、タブーになっており、「ナアナアの雰囲気」や「その場が楽しい」ことをよしとする風潮が教師文化に浸透しつつあることを指摘している。

近年、教師たちは非常に多忙を極めており、成員相互の交流が失われてきているといわれている（油布、1999）。それゆえに、彼らの文化の中には、①実践を語ることを忌避する傾向、②処方箋的な教材やノウハウを重視する傾向、③他の教師に物言うことを忌避する傾向、が存在しているのではないだろうか。

教師の学習共同体が維持され続けるためには、長い時間をかけた教師文化の邂逅と再構築が必要になるのであろう。そして、実践の語りあいが文化として定着する必要

がある。

今後の課題は、「一時的に教師たちに実践を語ってもらうこと」ではない。教師たちの持続可能な学習共同体 (sustainable learning community) や教師文化の再構築をどのようにサポートするか、そのサポートに研究者がどのように介入、関与するか、が今後の研究課題として残されている。

「わたしら、もう昔にはもどれんけど」

あえて昔にもどる必要はない。

われわれの目の前にあるテクノロジー、われわれの手の届くテクノロジーを活用して、かつての「ストップ」に象徴される教師の共同体を、さらには実践を語りつく教師文化を恢復することが、今、求められている。

引用文献

第1章

- Apple, M. W. 1996 Power, Meaning, Identity: critical sociology of education in the United States. *British Journal of Sociology of Education*, 17 (2), 125-143. 松本無双・柳沼良太 (訳) 2000 権力・意味・アイデンティティ：アメリカ合衆国の批判的教育社会学情况第2期, 11 (3), 70-97.
- Beach, K. 1993 Becoming a Bartender: The Role of External Memory Cues in a Work-directed Educational Activity. *Applied Cognitive Psychology*, 7, 191-204.
- Brown, J. S., Collins, A., & Duguid, P. 1988 Situated cognition and the culture of learning. Institute for Research on Learning Report, No. IRL 88-0008.
- Cazden, C. B. 1993 Vygotsky, Hymes, and Bahtin: From Word to Utterance and Voice. In E. A. Forman, N. Minick, & C. A. Stone (Eds.), *Contexts for learning: Sociocultural dynamics in children's development*. Oxford University Press. Pp. 197-212.
- Cole, M. 1996 *Cultural psychology: A once and future discipline*. The Belknap Press of Harvard University Press. 天野 清 (訳) 2002 文化心理学 新曜社
- Cole, M. 2001 Sustaining model systems of educational activity: designing for the long haul. Paper Presented at Symposium Honoring the Work of Ann Brown, Berkeley, California, January, 19-20.
- Dewey, J. 1916 Democracy and education: An introduction to the philosophy of education. New York: Macmillan.
- Эльконин, Д.Б. 1960 *ДЕТСКАЯ ПСИХОЛОГИЯ (Развитие Ребенка от рождения до семи лет)*, уцледгиз 駒林邦男 (訳) 1964 ソビエト・児童心理学：誕生から七歳までの子どもの発達 デ・ベ・エリコニン 明治図書
- Engeström, Y. 1987/1999 *Learning by expanding: An activity theoretical approach to developmental research*. Helsinki: Orienta Konsultit Oy. 山住勝広・松下佳代・百合草 禎二・保坂裕子・庄井良信・手取義宏・高橋 登 (掲抄訳) 1999 拡張による学習：活動理論からのアプローチ 新曜社
- Engeström, Y. 1993 Developmental studies of work as a testbench of activity theory: The Case of primary care medical practice. In S. Chaiklin & J. Lave (Eds.), *Understanding practice: Perspectives on activity and context*. Cambridge University Press. Pp. 64-97.
- Engeström, Y. 1995 Objects, contradictions and collaboration in medical cognition: an activity-theoretical perspective. *Artificial Intelligence in Medicine*, 7, 395-412.
- Giroux, H. 1992 *Resisting Difference-Cultural studies and the Discourse of Critical Pedagogy in Cultural Studies*. Routledge, Chapman and Hall, Inc. 大田直子 (訳) 1996 抵抗する差異：カルチュラル・スタディーズと批判教育学のディスコース 現代思想, 24 (7), 129-147.
- Institute for Research on Learning (IRL) 1993 Annual Report.

- Ishiguro, H. 1998 On the relation between new voices and old voices: What does a newcomer appropriate? *Bulletin of Miyagi University of Education*, 32, 307-318.
- 石黒広昭 1998 心理学を実践から遠ざけるもの 佐伯 胖・宮崎清孝・佐藤 学・石黒広昭 (編著) 心理学と教育実践の間で 東京大学出版会 Pp. 103-156.
- 石黒広昭 1999 Sharing voice : 発達の最近接領域構成のための言語的リソース 日本発達心理学会第10回大会 (大阪学院大学) 発表論文集, 142.
- 石黒広昭 2000 「異文化」問題の中にある子どもの言語発達 月刊「言語」, 29 (7), 76-83.
- 石黒広昭 2001 アーティファクトと活動システム 茂呂雄二 (編) 実践のエスノグラフィー 金子書房 Pp. 59-95.
- Ishiguro, H. 2002a An Extra Lesson for Language Minority in Japanese Elementary School. In 23rd Annual ethnography in education research forum (University of Pennsylvania).
- Ishiguro, H. 2002b When does a zone of proximal development extend?: Nurse takes a "sharing voice" to imitate the voice of a child's future. 5th ISCRAT congress, June 18 - 22, 2002, Amsterdam.
- 石黒広昭 2003 乳児の食介助場面の相互行為的分析: 社会的出来事としての食事 北海道大学大学院教育学研究科紀要, 91, 25-46.
- 石黒広昭 2004 フィールドの学としての日本語教育実践研究 日本語教育, 120, 1-12.
- 胸林邦男 1975 現代ソビエトの教授-学習諸理論: 教授-学習と発達の関連の問題を中心として 明治図書
- Lave, J. 1996 Teaching, as Learning, in Practice. *Mind, Culture, and Activity*, 3 (3), 149-164.
- Lave, J. & Wenger, E. 1991 *Situated learning: Legitimate peripheral participation*. Cambridge University Press. 佐伯 胖 (訳) 1993 状況に埋め込まれた学習 産業図書
- Леонтьев, А. Н. 1965 *Проблемы, развития психики*. Второе, Дополненное Издание Москва: Мысль. 松野 豊・西牟田久雄 (訳) 1967 子どもの精神発達 明治図書
- Леонтьев, А. Н. 1975/1979 The concept of activity in Soviet Psychology. In J. V. Wertsch (Ed. & Trans.), *The Concept of Activity in Soviet Psychology*. Armonk, New York: M. E. Sharpe, Inc. Pp. 37-71.
- Luria, A. R. 1974 *Об историческом развитии познавательных процессов*. 森岡修一 (訳) 1976 認識の史的発達 明治図書
- McDermott, R. P. 1993 The acquisition of a child by a learning disability. In S. Chaiklin & J. Lave (Eds.), *Understanding practice: perspectives on activity and context*. Cambridge University Press. Pp. 269-305.
- McDermott, R. P., Gospodinoff, K., & Aron, J. 1978 Criteria for an Ethnographically Adequate Description of Concerted Activities and their Contexts. *Semiotica*, 24 (3/4), 245-275.

- 齊藤亨博 1963 授業：子どもを変革するもの 国土社
- 佐藤 学 1995 学びの対話的実践へ 佐伯 胖・藤田英典・佐藤 学 (編) 学びへの誘い 東京大学出版会 Pp. 49-91.
- Scribner, S. 1984 Studying working intelligence. In B. Rogoff & J. Lave (Eds.), *Everyday cognition: its development in social context*. Harvard University Press. Pp. 9-40.
- Scribner, S. 1985 Vygotsky's uses of history. In J. Wertsch (Ed.), *Culture, Communication, and Cognition: Vygotskian perspectives*. Cambridge: Cambridge University Press. Pp. 119-145.
- Scribner, S. 1987/1997 Head and Mind: An action approach to thinking. In E. Tobach, R. J. Falgout, & A. S. Kapelman, (Eds.), *Mind and Social Practice: Selected Writings of Sylvia Scribner*. Cambridge University Press. Pp. 384-398.
- Scribner, S. & Cole, M. 1981 *The Psychology of Literacy*. Harvard University Press.
- Sigel, I. E. & Cocking, R. R. 1977 *Cognitive Development from Childhood to Adolescence: A Constructivist Perspective*. Holt, Rinehart & Winston. f'安増生 (訳) 1983 認知の発達：乳児期から青年期まで サイエンス社
- Vygotsky, L. 1928-1929/1994 The problem of the cultural development of the child. In R. van der Veer & J. Valsiner (Eds.), *The Vygotsky reader*. Basil Blackwell Ltd.
- Выготский, Л. С. 1934 *Мышление и речь: Myshlenie i rech*. 柴田義松 (訳) 1962 思考と言語 (上・下) 明治図書
- Vygotsky, L. S. 1930-1931/1981 The genesis of higher mental functions. In J. V. Wertsch (Ed. & Trans.), *The concept of activity in Soviet psychology*. Armonk, NY: M. E. Sharpe. Pp. 144-188.
- Vygotsky, L. S. 1979 *Mind in Society*. Harvard University Press.
- Wartofsky, M. 1973 *Models: representation and the scientific understanding*. Dordrecht Holland, Boston: D. Reidel Publishing.
- Wertsch, J. V. 1985 *Vygotsky and the social formation of mind*. Harvard University Press.
- Wertsch, J. V. 1995 Vygotsky on Learning and Development. *Human Development*, 38, 332-337.
- Wood, D., Bruner, J. S., & Ross, G. 1976 The role of tutoring in problem solving. *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, 17 (2), 89-100.

第2章

- Althusser, L. 1993 アルチュセールの〈イデオロギー〉論 三交社
- Bourdieu, P. & Passeron, J. C. 1970 *La reproduction: elements pour une theorie du systeme d'enseignement*. 宮島 喬 (訳) 1991 再生産：教育・社会・文化 藤原書店
- Freire, P. 1968 *Pedagogia do oprimido*. 小沢有作ほか (訳) 1979 被抑圧者の教育学 (亜紀書房)
- Hirsch, E. D., Jr. 1988 *Cultural Literacy: What Every American Needs to Know*. Vintage Books.
- 菊池久一 1995 「識字」の構造：思考を抑圧する文字文化 勁草書房
- Schaller, S. 1991 *A Man without Words*. Simon and Schuster.

Scribner, S. & Cole, M. 1981 *The Psychology of Literacy*. Cambridge, MA: Harvard University Press.

第3章

Bruner, J.S. 1975 The ontogenesis of speech acts. *Journal of child Language*, 2, 1-20.

Erickson, E. & Shultz, J. 1982 *The counselor as gatekeeper: Social action in interviews*. New York: Academic Press.

Kendon, A. 1990 Behavioral foundations for the process of frame-attunement in face-to-face interaction. In A. Kendon (Ed.), *Conducting interaction: Patterns of behavior in focused encounters*. Cambridge, New York: Cambridge University Press. Pp. 239-262.

Rieber, R. W. & Carton, A. S. 1987 *The collected works of L. S. Vygotsky: Volume 1 Problems of general psychology*. New York: Plenum Press.

Rommetveit, R. 1974 *On message structure: a framework for the study of language and communication*. New York: Wiley.

Schefflen, A. E. 1973 *Communicational structure: Analysis of a psychotherapy transaction*. Bloomington: Indiana University Press.

Schefflen, A. E. 1974 *How behavior means*. New York: Jason Aronson.

Silverstein, M. 1976 Shifters, linguistic categories, and cultural description. In K. Basso & H. Selby (Eds.), *Meaning in Anthropology*. Albuquerque: University of New Mexico Press.

Vygotsky, L. S. & Luria, A. R. 1993 *Studies on the history of behavior*. Hillsdale, NJ. : Lawrence Erlbaum Associates.

Wertsch, J. V. 1985 *Vygotsky and the social formation of mind*. Cambridge: Harvard University Press.

第4章

Anderson, J. R., Reder, L. M., & Simon, H. A. 1996 Situated learning and education. *Educational Researcher*, 25 (4), 5-11.

Anderson, J. R., Reder, L. M., & Simon, H. A. 1997 Rejoinder: Situative versus cognitive perspectives: Form versus substance. *Educational Researcher*, 26 (1), 18-21.

Beach, K. D. 1993 Becoming a bartender: The role of external memory cues in a work-directed educational activity. *Journal of Applied Cognitive Psychology*, 7, 191-204.

Beach, K. D. 1995a Sociocultural change, activity and individual development: Some methodological aspects. *Mind, Culture, and Activity*, 2 (4), 277-284.

Beach, K. D. 1995b Activity as a mediator of sociocultural change and individual development: The case of school-work transition in Nepal. *Mind, Culture, and Activity*, 2 (4), 285-302.

Beach, K. D. 1999 Consequential transitions: A sociocultural expedition beyond transfer in education. *Review of Research in Education*, 24, 101-139.

Beach, K. D. 2001 Generalization between the certification and work activities in an apprenticeship class: An illustration of a mediational consequential transition.

- Invited presentation, Department of Psychology, Aarhus University, Denmark.
- Beach, K. D. & Vyas, S. 1998 Light pickles and heavy mustard: Horizontal development among students negotiating how to learn in a production activity. Paper presented at the Third International Conference on Cultural Psychology and Activity Theory, Aarhus, Denmark.
- Bowers, J. 1996 Conducting developmental research in a technology-enhanced classroom. Unpublished PhD dissertation, Vanderbilt University.
- Bransford, J. D. & Schwartz, D. L. 1999 Rethinking transfer: A simple proposal with multiple implications. *Review of Research in Education*, 24, 62-92.
- Brim, O. G. & Kagan, J. 1980 *Constancy and change in human development*. Cambridge: Harvard University Press.
- Cobb, P. & Bowers, J. 1999 Cognitive and situated learning perspectives in theory and practice. *Educational Researcher*, 2, 4-15.
- Cole, M. 1996 *Cultural psychology: A once and future discipline*. Cambridge: Harvard University Press. 天野 清 (訳) 2002 文化心理学：発達・認知・活動への文化一歴史的アプローチ 新曜社
- Cox, B. D. 1997 The rediscovery of the active learner in adaptive contexts: A developmental-historical analysis of transfer of training. *Educational Psychologist*, 32 (1), 41-55.
- Davydov, V. V. 1990 *Types of generalization in instruction: Logical and psychological problems in the structuring of school curricula*. Soviet Studies in Mathematics Education, Vol. 2. Reston, VA: National Council of Teachers of Mathematics.
- Detterman, D. K. 1993 The case for the prosecution: Transfer as an epiphenomenon. In D. K. Detterman & R. J. Sternberg. (Eds.), *Transfer on trial: Intelligence, cognition, and instruction*. Norwood, NJ: Ablex. Pp. 1-24.
- Detterman, D. K. & Sternberg, R. J. (Eds.) 1993 *Transfer on trial: Intelligence, cognition, and instruction*. Norwood, NJ: Ablex.
- Dewey, J. 1916 *Democracy and education: An introduction to the philosophy of education*. NY: Macmillan. 河村 鼠 (訳) 2000 民主主義と教育 人間の科学社
- Dewey, J. 1985 *Essays on education and politics, Vol. 8*. Carbondale, IL: Southern University Press.
- Engeström, Y., Engeström, R., & Kärkkäinen, M. 1995 Polycontextuality and boundary crossing in expert cognition: Learning and problem solving in complex work activities. *Learning and Instruction*, 5, 319-336.
- Engeström, Y. 1996 Development as breaking away and opening up: A challenge to Vygotsky and Piaget. *Swiss Journal of Psychology*, 55, 126-132.
- Evans, J. 1999 Building bridges: Reflections on the problem of transfer of learning in mathematics. *Educational Studies in Mathematics*, 39 (1/3), 23-44.
- Falmagne, R. J. 1995 The abstract and the concrete. In L. Martin, K. Nelson, & E. Tobach (Eds.), *Sociocultural psychology: Theory and practice of doing and knowing*. New York: Cambridge University Press. Pp. 205-228.

- Gover, M. 2001 Identity is a verb. Unpublished PhD dissertation.
- Greeno, J. G. 1997 Response: on claims that answer the wrong questions. *Educational Researcher*, 26 (1), 5-17.
- Gruber, H., Law, L., Mandl, H., & Renkl, A. 1996 Situated learning and transfer. In P. Reimann & H. Spada (Eds.), *Learning in humans and machines: Towards an interdisciplinary learning science*. Oxford: Pergamon. Pp. 168-188.
- Guberman, S. R. & Greenfield, P. M. 1991 Learning and transfer in everyday cognition. *Cognitive Development*, 6, 233-260.
- Gutierrez, K., Rymes, B., & Larson, K. 1995 Script, counterscript, and underlife in the classroom: James Brown versus Brown v. Board of Education. *Harvard Educational Review*, 65, 445-471.
- Hungwe, K. 1999 Becoming a machinist in a changing industry. Unpublished PhD Dissertation, Michigan State University.
- Hungwe, K. & Beach, K. 1995 Learning to become a machinist in a technologically changing industry. Poster presented as part of an interactive poster session titled, "Learning and Development Through Work" at the Annual Meeting of the Educational Research Association, San Francisco, CA.
- Hutchins, E. 1995 *Cognition in the wild*. Cambridge, MA: MIT Press.
- Kindermann, T. & Valsiner, J. 1989 Research strategies in culture-inclusive developmental psychology. In J. Valsiner. (Ed.), *Child development in cultural context*. Lewiston, NY: Hogrefe and Huber Publishers. Pp. 13-50.
- Kirshner, D. & Whitson, J. A. (Eds.) 1997 *Situated cognition: Social, semiotic, and psychological perspectives*. Mahwah, NJ: Erlbaum.
- Laboratory for Comparative Human Cognition (LCHC) 1986 Culture and cognitive development. In W. Kessen (Ed.), *Manual of child psychology: History, theory, and methods*. New York: Wiley. Pp. 295-356.
- Lareau, A. 1989 *Home advantage*. NY: The Falmer Press.
- Lave, J. 1988 *Cognition in practice*. NY: Cambridge. 無藤 隆・山下清美・中野茂・中村美代子 (訳) 1995 日常生活の認知行動：ひとは日常生活でどう計算し、実践するか 新曜社
- Lave, J. 1996 Teaching, as learning, in practice. *Mind, Culture, and Activity*, 3 (3), 149-164.
- Lave, J. & Wenger, E. 1991 *Situated learning: Legitimate peripheral participation*. NY: Cambridge University Press. 佐伯 胖 (訳) 1993 状況に埋め込まれた学習：正統的周辺参加 産業図書
- Lemke, J. 1997 Cognition, context, and learning: A social semiotic perspective. In D. Kirshner & J. A. Whitson (Eds.), *Situated cognition: Social, semiotic, and psychological perspectives*. Mahwah, NJ: Erlbaum. Pp. 37-56.
- Leont'ev, A. N. 1981 The problem of activity in psychology. In J. V. Wertsch (Ed.), *The concept of activity in Soviet psychology*. Armonk, NY: Sharpe. Pp. 37-71.
- Lobato, J. E. 1996 Transfer reconceived: How sameness is produced in mathematical

- activity. Unpublished PhD dissertation, University of California, Berkeley.
- Martin, L. W. & Beach, K. D. 1992 Technical and symbolic knowledge in CNC machining: A study of technical workers of different backgrounds. Technical report. National Center for Research on Vocational Education, University of California, Berkeley.
- Martin, L. W. & Scribner, S. 1992 laboratory for cognitive studies of work: A case study of the intellectual implications of a new technology. *Teachers College Record*, 92 (4), 582-602.
- Maturana, H. 1975 The organization of the living: A theory of the living organization. *International Journal of Man-Machine Studies*, 7, 313-332.
- Mayer, R. E. & Whittrock, M. C. 1996 Problem-solving transfer. In D. C. Berliner & R. C. Calfee (Eds.), *Handbook of educational psychology*. NY: Simon & Schuster Macmillan. Pp. 47-62.
- Moll, L. C. 1992 Funds of knowledge for teaching: Using a qualitative approach to connect homes and schools. *Theory into Practice*, 31 (1), 132-141.
- Nicolopoulou, A. & Cole, M. 1994 Generation and transmission of shared knowledge in the culture of collaborative learning: The fifth dimension, its play-world, and its institutional contexts. In E. A. Forman, N. Minick, & C. A. Stone (Eds.), *Contexts for learning*. NY:Oxford. Pp. 283-314.
- Noss, R. & Hoyles, C. 1996 The visibility of meanings: Modeling the mathematics of banking. *International Journal for Computers in Maths Learning*, 1 (1), 3-30.
- Packer, M. 2001 The problem of transfer, and the sociocultural critique of schooling. *The Journal of the Learning Sciences*, 10 (4), 493-514.
- Palincsar, A. M. & Brown, A. L. 1984 Reciprocal teaching of comprehension-fostering and comprehension-monitoring activities. *Cognition and Instruction*, 1 (2), 117-175.
- Pea, R. D. 1987 Socializing the knowledge transfer problem. *International Journal of Educational Research*, 11, 639-664.
- Plato 1961 *Meno*. Cambridge, England: Cambridge University Press. 藤沢令夫 (訳) 1994 メノン 岩波書店
- Prawat, R. S. 1999 Social constructivism and the process-content distinction as viewed by Vygotsky and the pragmatists. *Mind, Culture, and Activity*, 6 (4), 255-273.
- Pressley, M. 1995 A transactional strategies instruction Christmas carol. In A. McKeough, J. Lupart, & A. Marini (Eds.), *Teaching for transfer: Fostering generalization in learning*. Mahwah, NJ: Erlbaum. Pp. 177-214.
- Reineke, J. W. 1995 To Home and back: The influence of students' conversations on their completion of school mathematics tasks. Unpublished PhD Dissertation, Michigan State University.
- Rogoff, B. & Gardner, W. 1984 Adult guidance of cognitive development. In B. Rogoff and J. Lave (Eds.), *Everyday cognition: Its development in social context*. Cambridge, MA: Harvard University Press. Pp. 95-116.
- Saxe, G. B. 1989 Transfer of learning across cultural practices. *Cognition and Instruction*, 6 (4), 325-330.

- Saxe, G. B. 1991 *Culture and cognitive development: Studies in mathematical understanding*. Hillsdale, NJ: LEA.
- Sayeki, Y., Ueno, N., & Nagasaka, T. 1991 Mediation as a generative mode for obtaining an area. *Learning and Instruction*, 1, 229-242.
- Star, S. L. 1989 *Regions of the mind: Brain research and the quest for scientific certainty*. Stanford, CA: Stanford University Press.
- Star, S. L. 1996 Working together: Symbolic interactionism, activity theory, and information systems. In Y. Engeström & D. Middleton (Eds.), *Cognition and communication at work*. New York:Cambridge University Press. Pp. 296-318.
- Thurman, R. A. F. 1984 *The central philosophy of Tibet*. Princeton, NJ: Princeton University Press.
- U. S. Dept. of Labor 1991 *What work requires of schools: A SCANS report for America 2000*. U. S. Department of Labor: The Secretary's Commission on Achieving Necessary Skills.
- Valsiner, J. 1989 *Human development and culture*. Lexington, MA: Heath.
- van Oers, B. 1998 The fallacy of decontextualization. *Mind, Culture, and Activity*, 5 (2), 135-142.
- Varela, F. J. 1981 Autonomy and autopoiesis. In R. Gerhard & H. Schwegler (Eds.), *Self-organizing systems: An interdisciplinary approach*. New York: Verlag. Pp. 14-23.
- Varela, F. J., Thompson, E., & Rosch, E. 1991 *The embodied mind: Cognitive science and human experience*. Cambridge, MA: MIT Press. 田中靖夫 (訳) 2001 身体化された心—仏教思想からのエナクティブ・アプローチ 工作舎
- Vygotsky, L. S. 1978 *Mind in society: The development of higher psychological processes*. Cambridge, MA: Harvard University Press.
- Vygotsky, L. S. 1987 Problems of general psychology. In N. Minick (Ed. and Trans.), *The collected works of L. S. Vygotsky*. Vol. 1. NY: Plenum.
- Walkerdine, V. 1988 *The mastery of reason*. London: Routledge.
- Wartofsky, M. W. 1979 *Models*. Boston: D. Reidel Publishing.
- Wenger, E. 1998 *Communities of practice: Learning, meaning, and identity*. NY: Cambridge University Press.
- Whitson, J. A. 1997 Cognition as a semiotic process: From situated mediation to critical reflective transcendence. In D. Kirshner & J. A. Whitson (Eds.), *Situated cognition: Social, semiotic, and psychological perspectives*. Mahwah, NJ: Erlbaum. Pp. 97-150.
- Wilcox, C. & Beach, K. D. 1996 Order in the court: The development of a play activity and its elementary school participants. Paper presented at the Biannual Meeting of the International Society for the Study of Behavioral Development, Quebec City, Canada.
- W. T. Grant Foundation 1988 *The forgotten half: Non-college youth in America*. Commission on Work, Family, and Citizenship.

第5章

- Bakhtin, M. M. 1929 *Марксизм и философия языка: ос новные проблемы социологического метода в науке о языке; Marksizm i filozofia iazyk: osnovnye problemy sotsiologicheskogo metoda v nauke o iazyke*. Volosinov, V. N. 1973 *Marxism and the Philosophy of Language*. (Translated by L. Matejka, and I. R. Titunik). Cambridge, MA: Harvard University Press. 桑野 隆 (訳) 1989 マルクス主義と言語哲学 未来社
- Hall, J. K. 1995 (Re) creating our world with words: A sociohistorical perspectives of face-to-face interaction. *Applied Linguistics*, 14, 145-166.
- 石黒広昭 1998 心理学を实践から遠ざけるもの 佐伯 胖・宮崎清孝・佐藤 学・石黒広昭 (著) 心理学と教育实践の間で 东京大学出版会
- 木村宗男・阪田雪子・窪田富男・川本 喬 (編) 1989 日本語教授法 桜楓社
- Kasper, G. & Kellerman, E. (Eds.) 1997 *Communication Strategies*. New York: Longman.
- Krashen, S. 1982 *Principles and Practices in Second Language Acquisition*. Oxford: Pergamon.
- Lave, J. & Wenger, E. 1991 *Situated Learning: Legitimate Peripheral Participation*. New York: Cambridge University Press. 佐伯 胖 (訳) 1993 状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加 産業図書
- Lewis, M. 1993 *The Lexical Approach*. Language Teaching Publications.
- Long, M. 1981 Input, interaction and second language acquisition. In H. Winitz (Ed.), *Native Language and Foreign Language Acquisition*. Annals of New York Academy of Sciences, 379, 259-278.
- Mehan, H. 1979 *Learning Lessons*. Cambridge, MA: Harvard University Press.
- 森本郁代 1999 日本語学習者の教室場面におけるインターアクション—教師の誘発と学習者の応答を中心に— 大阪大学大学院言語文化研究科提出修士論文
- Nattinger, J. R. & DeCarrico, J. S. 1989 *Lexical Phrases and Language Teaching*. Oxford: Oxford University Press.
- Newman, D., Griffin, P., & Cole, M. 1989 *The Construction Zone: Working for Cognitive Change in School*. New York: Cambridge University Press.
- 日本語教育学会 (編) 1982 日本語教育事典 大修館書店
- 西口光一 1998 自己表現中心の入門日本語教育 多文化社会と留学生交流第2号 大阪大学留学生センター
- 西口光一 1999 状況的学習論と新しい日本語教育の实践 日本語教育第100号 日本語教育学会
- Ong, W. J. 1982 *Orality and Literacy, The Technologizing of the Word*. Methuen. 桜井直文・林 正寛・緒谷啓介 (訳) 1991 声の文化と文字の文化 藤原書店
- Scarella, R. C. & Oxford, R. L. 1992 *The Tapestry of Language Learning: the Individual in the Communicative Classroom*. Boston, Mass.: Heinle and Heinle. 牧野高吉 (訳・監修) 菅原水一ほか (訳) 第2 言語習得の理論と実践—タペストリー・アプローチ 松柏社
- Sfard, A. 1998 On two metaphors for learning and the danger of choosing just one.

Educational Researcher, 27 (2), 4-13.

- Swain, M. 1985 Communicative competence: Some roles of comprehensible input and comprehensible output in its development. In S. M. Gass & C. G. Madden (Eds.), *Input in Second Language Acquisition*. Rowley, MA: Newbury House.
- Vygotsky, L. S. 1934 *Мышление и речь; Myshlenie i rech.* 柴田義松 (訳) 2001 思考と言語 新説書社
- Vygotsky, L. S. 1981 The genesis of higher mental functions. In J. V. Wertsch (Ed). *The concept of activity in Soviet psychology*. Armonk, NY: M. E. Sharpe. Pp. 144-188. 柴田義松 (訳) 1970 精神発達の理論 明治図書
- Young, R. 1999 Sociolinguistic approaches to SLA. *Annual Review of Applied Linguistics*, 19, 105-132.

第6章

- Bakhtin, M. M. 1981 *The dialogic imagination: Four essays by M. M. Bakhtin*. Ed. M. Holquist; Trans. C. Emerson & M. Holquist. Austin: University of Texas Press. 伊東一郎 (訳) 1979 小説の言葉 ミハイル・バフチン著作集5 新時代社
- Bakhtin, M. M. 1979 *Estetika slovesnogo tvorchestva (The aesthetics of verbal creation)*. Moscow: Iskusstvo. 新谷敬三郎・伊東一郎・佐々木 寛 (訳) 1988 ことば 対話テキスト ミハイル・バフチン著作集8 新時代社
- Bakhtin, M. M. 1930 *Марксизм и философия языка: основные проблемы социологического метода в науке о языке; Marksizm i filosofia iazyk: osnovnye problemy sotsiologicheskogo metoda v nauke o iazyke*. 桑野 隆 (訳) 1994 マルクス主義と言語哲学—言語学における社会学的方法の基本的問題 (改訳版) 未來社
- Kleinman, A. 1988 *The illness narratives: suffering, healing and the human condition*. 江口重幸・五木田 紳・上野豪志 (訳) 1996 病いの語り—慢性の病いをめぐる臨床人類学— 誠信書房
- 松田孝志 2000 シグソー法によるグループ学習実践 近藤邦夫・岡村達也・保坂 亨 (編) 子どもの成長 教師の成長—学校臨床の展開— 東京大学出版会 Pp. 67-78.
- 酒井直樹 1990 他者性と文化 思想の科学 No. 125 1990年2月号 Pp. 4-8.
- 上屋由美 1997 学びを聞く「声」との出会い—ある脳卒中患者のリハビリ過程の参与観察を通して— 平成8年度東京大学大学院教育学研究科修士論文
- Vygotsky, L. S. 1934 *Мышление и речь; Myshlenie i rech.* 柴田義松 (訳) 1962 思考と言語 (上・下) 明治図書出版
- Vygotsky, L. S. 大井清吉・菅田洋一郎 (監訳) 1982 子どもの欠陥性の心理学と教育学について ヴィゴツキー障害児発達論集 ぶどう社
- Wertsch, J. V. 1991 *Voices of the mind: A sociocultural approach to mediated action*. Cambridge, Mass: Harvard University Press. 田島信元・佐藤公治・茂呂雄二・上村佳世子 (訳) 1995 心の声—媒介された行爲への社会文化的アプローチ— 福村出版
- Wertsch, J. V. 1990 石黒広昭 (訳) 1991 合理性の声—精神に対する社会文化的アプロ

第7章

- 麻生 武 1991 身ぶりから言葉へ 新曜社
- 麻生 武 2002 乳幼児の心理—コミュニケーションと自我の発達— サイエンス社
- Cazden, C. 1997 Performance before competence: Assistance to child discourse in the zone of proximal development. In M. Cole, Y. Engeström, & O. Vasquez, (Eds.) *Mind, culture, and activity: Seminal papers from the Laboratory of Comparative Human Cognition*. Cambridge University Press. Pp. 303-310.
- Cole, M. 1996 *Cultural psychology: A once and future discipline*. Cambridge: The Belknap Press of Harvard University Press. 天野 清 (訳) 2002 文化心理学: 発達・認知・活動への文化-歴史的アプローチ 新曜社
- Eng, H. 1954 *The psychology of children's drawings: from the first stroke to the coloured drawing*. London: Routledge & Kegan Paul LTD. 外山卯三郎 (訳) 1958 児童画の心理 暁教育図書株式会社
- Engeström, Y. 1987 *Learning and Expanding: An activity-theoretical approach to developmental research*. Helsinki: Orienta-Konsultit Oy. p. 368. 山住勝広・松下佳代・百合草楨二・保坂裕子・庄井良信・手取義宏・高橋 登 (訳) 1999 拡張による学習 新曜社
- Engeström, Y. 1993 Developmental studies on work as a testbench of activity theory. In S. Chaiklin and J. Lave, (Eds.), *Understanding practice: Perspectives on activity and context*. New York: McGraw-Hill.
- Goffman, E. 1959 *The presentation of self in everyday life*. Doubleday & Company Inc. 石黒 毅 (訳) 1974 行為と演技—日常生活における自己呈示— 誠信書房
- 草津 攻 1993 アイデンティティ 森岡清美・塩原 勉・本間康平 (編) 新社会学事典 有斐閣 p. 3.
- 石黒広昭 1998 心理学を实践から遠ざけるもの—個体能力主義の興隆と破綻— 佐伯 胖・宮崎清孝・佐藤 学・石黒広昭 (編著) 心理学と教育実践の間で 東京大学出版会
- 柄谷行人・木村 敏 1985 対話: 他者に教えることまたは〈言語ゲームの共有〉 現代思想, 13 (12), 189-206.
- Lave, J. V. & Wenger, E. 1991 *Situated Learning: Legitimate Peripheral Participation*. Cambridge University Press. 佐伯 胖 (訳) 1993 状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加— 産業図書
- Rossi-Landi, F. 1983 *Language as work and trade: A semiotic homology for linguistics and economics*. South Hadley, MA: Bergin & Garvey.
- Luquet, G. H. 1977 *Le Dessin Enfantin: présentée et commentée par Jacques Depouilly*. Delachaux & Niestlé S. A., Neuchâtel (Switzerland) -Paris. 須賀哲夫 (監訳) 吉田 博子・毛塚恵美子・五十嵐佳子 (訳) 1979 子供の絵—児童画研究の源流— 金子書房
- 松本健義 1994 幼児の造形行為における他者との相互行為の役割に関する事例研究

- (1) 美術科教育学会誌 美術教育学, 15, 265-280.
- 松本健義 1995 なぜ幼児は描き、造るのか 財団法人美育文化協会(編) 美育文化, 45 (6), 38-43.
- 松本健義 1996 幼児の造形行為における他者との相互行為の役割に関する事例研究(2) —「顔」の描画表現様式形成における知覚的同一性と相互行為文脈への依存性— 美術科教育学会誌 美術教育学, 17, 231-246.
- 松本健義 1998 幼児の造形表現と会話における物語の展開に関する事例研究 平成8～9年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書 研究代表者松本健義(課題番号:08680302)
- 松本健義 1999 子どもの相互行為の意味と教育実践学 芸術教育実験学会編 芸術教育実践学 第2号 Pp. 44-51.
- 松本健義 2004a つくり表わす行為, つくり表わされるもの, つくり表わす行為者の相互的生成 大学美術教育学会誌, 36, 417-424.
- 松本健義 2004b つくり表わすことの喜び 無藤 隆・麻生 武(編)「保育ライブラリ」教育心理学 北大路書房 Pp.90-101.
- 松本健義・服部孝江 1999 砂場における幼児の造形行為のエスノメソドロロジー 上越教育大学研究紀要, 18 (2), 517-536.
- 松本健義・三浦真里 2000 幼児の遊びにおける日常生活空間の変容について 子ども社会研究, 6, 56-69.
- Mehan, H. 1979 *Learning Lessons*. Harvard University Press.
- Merleau-Ponty, M. 1945 *Eloge de la philosophie l'oeil et l'esprit*. Paris: Gallimard. 滝浦静雄・木田 元(訳) 1966 眼と精神 みすず書房
- 三浦真里 2002 幼児のつくり表す行為と遊びの道具の生成過程 大学美術学会誌, 34, 423-430.
- 茂呂雄二 1988 なぜ人は書くのか 東京大学出版会
- 中田基昭 1996 教育の現象学 川島書店
- 西阪 仰 1997 相互行為分析という視点 金子書房
- 西野範夫 1999 子どもの意味生成表現という学び 連載第35回:子どもたちがつくる学校と教育 美育文化協会(編) 美育文化, 49 (7), 46-53.
- 野口祐二 2002 物語としてのケーナラティブ・アプローチの世界へ— 医学書院
- Suchman, L. A. 1987 *Plans and Situated Actions: The Problem of human machine communication*. Cambridge University Press. 佐伯 胖(監訳) 上野直樹・水川喜文・鈴木栄華(訳) 1999 プランと状況的行為—人間-機械コミュニケーションの可能性— 産業図書
- 田島信元 1996 ヴィゴツキー 浜田寿美男(編) 別冊発達, 20, 74-94.
- 田島信元 2003 共同行為としての学習・発達—社会文化的アプローチの視座— 金子書房
- 上野直樹 1996 協同的な活動を組織化するリソース 認知科学, 3 (2), 5-24.
- 上野直樹 1999 仕事の中での学習—状況論的アプローチ— 東京大学出版会
- Vygotsky, L. S. 1981 The genesis of higher mental functions. In J. V. Wertsch (Ed), *The concept of activity in Soviet psychology*. Armonk, NY: M. E. Sharpe. Pp. 144-188. 柴田